

Learning for tomorrow ～明日への学び～

SUMASHUKU通信

SUMA GAKUEN SHUKUGAWA 2025
合格おめでとう号

- 02 ―― 理事長、学園長あいさつ
03 ―― 高等学校校長、高等学校教頭あいさつ
04 ―― 合格体験記：東京大学・京都大学・大阪大学・神戸大学・九州大学・東京科学大学・香川大学・佐賀大学・琉球大学
08 ―― 2025 年度 大学合格実績



SUMASHUKU通信

SUMA GAKUEN SHUKUGAWA 2025

2025年5月14日発行 発行/須磨学園 鳳川中学校・高等学校
〒652-0043 兵庫県神戸市兵庫区下山1丁目1-7-1 TEL・078-578-7226 FAX・078-578-7245

070514200

2025 年度 大学合格実績

医学部医学科**6**名 歯学部歯学科**2**名 薬学部(6年制)**2**名
国公立(大学校含む) **32**名 私立大学**193**名 (現役生徒数87名)

2025 年4月4日現在

医・歯・薬

医学部医学科

■国立大学 医学部医学科	
香川大学	1
佐賀大学	1
琉球大学	1

■大学校 医学部医学科

防衛医科大学校	3
---------	---

歯学部歯学科

■私立大学 歯学部歯学科	
日本歯科大学	1
神奈川歯科大学	1

薬学部(6年制)

■国公立大学 薬学部(6年制)	
山口東京理科大学	1

■私立大学 薬学部(6年制)	
慶應義塾大学	1

学校説明会・見学会等の
須磨学園 鳳川中学校・高等学校
最新情報は
ホームページをご覧ください！



<https://www.sumashuku.jp/>

国公立大学(大学校含む)

東京大学	1
京都大学	1
大阪大学	1
神戸大学	1
九州大学	1
東京科学大学	1

弘前大学	1
山形大学	1
横浜国立大学	1
富山大学	1
広島大学	1
山口大学	1
徳島大学	1
香川大学	1
愛媛大学	1
佐賀大学	1
宮崎大学	1
琉球大学	1

釧路公立大学	1
公立諏訪東京理科大学	1
愛知県立大学	1
滋賀県立大学	1
福知山公立大学	2
兵庫県立大学	1
新見公立大学	1
山口東京理科大学	1
周南公立大学	1

■大学校

水産大学校	1
防衛医科大学校	3

私立大学

早稲田大学	1
慶應義塾大学	2
東京理科大学	2
関西大学	3
関西学院大学	11
同志社大学	9
立命館大学	1

京都産業大学	8
近畿大学	27
甲南大学	9
龍谷大学	3

酪農学園大学	1
東京農業大学	1
帝京大学	1
二松学舎大学	1
日本歯科大学	1
日本大学	1
神奈川歯科大学	1
長浜バイオ大学	3
京都精華大学	1
京都女子大学	2
同志社女子大学	1
大阪経済大学	2
大阪経済法科大学	1
大阪工業大学	8
大阪学院大学	2
大阪芸術大学	1
大阪成蹊大学	1
追手門学院大学	14
関西国際大学	1
四天王寺大学	2
摂南大学	2
桃山学院大学	1
森ノ宮医療大学	2
大和大学	2

園田学園大学	1
甲南女子大学	9
神戸学院大学	18
神戸松蔭大学	4
神戸親和大学	3
神戸常盤大学	2
神戸女子大学	6
兵庫医科大学	1
兵庫大学	2
武庫川女子大学	18

中学校 いずれもお申込みが必要です。詳しくはホームページまたはお電話にてお問い合わせください。

学校説明会	5/24 ⊕	時間…14:00～16:00
場所…本校・Zoomライブ配信		Web受付開始日時 4/30 ⊗10:00～

オープンスクール	① 6/ 8 ⊕ ② 9/14 ⊕ ③10/ 5 ⊕	時間…10:00～12:10
場所…本校		①Web受付開始日時 5/14 ⊗10:00～ ②Web受付開始日時 8/ 6 ⊗10:00～ ③Web受付開始日時 9/ 3 ⊗10:00～

学校説明・入試説明会	11/29 ⊕	時間…10:00～12:00
場所…本校・Zoomライブ配信		Web受付開始日時 10/29 ⊗10:00～

高等学校 詳しくはホームページをご覧ください。

学校入試説明会・見学会
●場所…本校・Zoomライブ配信
(Zoomライブ配信は10/25、12/6のみ)

●時間…10:00～12:00

10/25⊕・11/ 1⊕・11/ 8⊕
11/30⊕・12/ 6⊕

Web受付開始日時 全日10/6 ⊗10:00～

※自家用車でのご来校はご遠慮ください。



理事長

西 泰子

中高一貫1期生、高等学校4期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この3年間（6年間）を振り返ってみると色々なことがありました。新型コロナウイルス感染拡大のため、学校生活は大きく変わりました。

コロナ禍の中、それでも皆さんは受験に向けてひたむきに努力を積み重ねられました。誰もが初めて経験するオンラインでの授業になり、普段にも増し受験の準備は大変だったと想像します。学校に来られずに自宅で勉強していた時間はさぞかし孤独な時間だったと思います。

しかし、この時間はまたとない「学びの機会」でもありました。先生たちは何が正解なのか分からない中、「皆さんにとつていい」と思われることを試行錯誤しつつも一生懸命やりました。皆さんも先生たちを信じ、学びを止めることなく続けられました。

クラスメートや先生たちと直接関わることができない時間に学んだことは知識だけではなかったと思います。自分の頭で考えて答えをだしていくこと。人との関わりの中で私たちは生活していること。困難を共有しともに乗り越えていくこと。様々なかたちの学びがありました。皆さんにもたらされた大学入試の結果はそれぞれだったかもしれませんが、皆さんがこの間に経験された「学び」は確実に将来に続く学びだと思っています。

これから先、社会のあり方は以前とは変わっていくかもしれませんが、これからも学びを止めることなく、「なりた自分」を実現するために努力を積み重ねていっていただきたいと思っています。皆さんの引き続きのご健闘とご活躍を応援しています。



高等学校校長

土屋 博文

中高一貫1期生、高校入学4期生の皆さん、このたびの大学合格おめでとうございます。皆さんは本校の新たな歴史を築きました。皆さんの努力と成長に心から敬意を表します。

本校では「Learning for tomorrow ～明日への学び～」を学びのテーマに掲げてきました。皆さんはこの理念のもと、日々の授業に集中し、理解を深める姿勢を貫いてきました。放課後の特別講座に積極的に参加し、「9時学」や「休日自学」なども活用しながら、自学に主体的に取り組み姿勢を確立していきました。演習後の「なぜ間違えたのか」「どうすれば次に生かせるか」といった自己分析を丁寧に言い、理解の質を高めていったことも学力向上に直結した重要な要因です。ただ問題をこなすのではなく、真の理解を目指す姿勢が確かな力を育てました。

また、学習と並行して学校行事や部活動にも真剣に取り組み、仲間と協力した時間を積み重ねてきたことで生活のリズムとメリハリが生まれ、心身の健康と学習への集中を両立できていました。

こうした取り組みを支えていたのがP・M・Tの実践です。自ら計画を立て、学習と生活をバランスよく管理し、規則正しい生活を継続する力は、まさに皆さんの強みでした。皆さんが本校で築いてきたこのような力は、これからの学びの場で大きな支えとなるでしょう。大学ではより自由で専門的な学びが始まります。そこで求められるのは常識を疑う「視点や自ら問いを立てて考え抜く力」です。「明日への学び」はここから新たに始まります。

現代は先の見通しが立ちにくい時代です。不安に感じることもあるでしょう。そのような時はあわてず立ち止まり、目を凝らしてみてください。そして勇気をもって一歩を踏み出してください。目の前の扉が閉ざされているかもしれませんが、大丈夫です。皆さんにはそれをこじ開ける力があります。どうか自分を信じ、自らの道を一歩ずつ進んでください。皆さんのこれからの飛躍を心より期待しております。



学園長

西 和彦

大学合格おめでとうございます。

平均競争率数倍という難関を乗り越けて、勝利した諸君に言いたいことは、これからは競争社会という世の中の非情を勝ち抜いてほしいということです。大学入学で数倍、大学院修士で数倍、大学院博士で数倍。そのあと、例えば大学では、大学講師で数倍、大学教授で数倍、例えば会社でも課長に数倍、部長に数倍、役員に数倍、社長に数倍など合計数百倍の狭き門が当たり前にこの社会です。それを恨んでみても仕方がありません。人を切り落としてゆくことが、長い間に確立されたこの社会の選抜システムなのです。

須磨学園はそういうシステムを否定するものではありませんが、それよりも自己実現とそれによる達成感の満足が最も大切であるという信念に基づき、諸君らが自分の専門を世界レベルにまで高めて、それで社会に貢献してゆかれることを願っています。

自分が上のポジションに進むことができる人は限られた人です。合格によってその一歩を進み始めたそういう人は、自分のことだけでなく、周りの人にも幸せを分けてあげてほしいと思います。それが上に行く選ばれた人の果たさなければならぬ周りへの責任ではないでしょうか。

私は自分のこの69年の人生を振り返って見たときに、新しいチャンスは自分で掴み取ったのではなく、いつも自分のことを評価してくださった上司や先輩が自分を引き上げてくださったことを忘れることはできません。ぜひ君たちも在学中に学んだ「XYZ・T・心」を大きく、温かくするための考えと、その心で周りの人に接してゆくことの実践を強く期待するものであります。



高等学校教頭

下地 英樹

中高一貫1期生、高等学校4期生のみなさん、合格おめでとうございます。

中高一貫1期生は、須磨学園鳳川中学校が産声をあげたまさにその時に入学し、学校の歩みに歩調をあわせ、皆さんが歩んだ一歩一歩がまさに学校の足跡となりました。その中、様々な体験や見聞を通じて学び、成長されたことと思います。そして、それらの成長が結果するのが大学受験だったのではないのでしょうか。

大学受験は、自身の専門性を決めることから始まります。自分は何が得意で、何がしたいのか。どのような価値観を持ち、社会とどのように関係性をもつか。自分自身と向き合い、自問自答をくり返す中で、自分への理解を少しずつ深めていく時間でもあります。そして、受験勉強は、多種多様な膨大な内容をこなさなければなりません。そこには、計画力、分析力、先を見通す洞察力、自律性、継続力、忍耐力など、さまざまな力が問われます。それだけでも大変なことですが、模試の結果や勉強のつまづきなどが思考を混乱させ、精神的に不安定になる要素も数多くありました。紆余曲折、山あり谷あり、まるで茨の道を進むような日々だったことと思います。そのような道を歩んだ末に、何を得たのでしょうか。

「合格切符を勝ち取り、大学進学を決めた」という成果はもちろんですが、それと同時に、自分自身を発見したことも大きな収穫ではないでしょうか。自分はこれだけのことができる「あれは苦手だが、これは得意だ」といった認識つまり「自信」です。困難な道を全力で駆け抜けたからこそ得られた、かけがえのない力です。

大学に入学し、新たな生活をスタートする卒業生のみなさん。合格切符を手に持ち、心に自信をもって、これからさまざまなことにチャレンジし、さらに成長されることを心より祈っています。

合格するにはわけがある 9人の受かった！レポート！



東京大学
理科二類

新元 琉空

自分が受験をする意味

「なぜ受験なんかするのだろう？」
受験生なら一度は抱いた疑問だと思います。この疑問に自分なりに答えを見つけることこそが、受験へのモチベーションを保ち、ブレることなく勉強を続けるためのキープポイントであると考えています。この合格体験記では、具体的な勉強方法は他の方に譲って、この疑問に対する僕なりの答えを述べていきたいと思います。

受験生になるまでは、僕にとって学校の授業は基本的に楽しいものでした。知らないことを知り、知的好奇心を満たすという過程が楽しかったのだと思います。僕にとって、知っていることはかっこいいことだったからです。

しかし、高校範囲の学習が終わると、そこからの勉強は、既習の範囲をひたすら固める作業へと変貌します。突然



大阪大学
外国語学部
フィリピン語専攻

岩井 果音

道を切り開くのは自分自身

大阪大学合格は、決して私一人の力で掴めたものではありません。先生方はじめ、支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。夙川での6年間は、私自身を大きく成長させてくれました。その中でも、特に私が合格できた理由として挙げたいことが二つあります。

一つ目は、劣等感を向上心へと変えたことです。私は中学受験で須磨学園に落ちました。夙川には、同じような経験をもつ人が多く、コンプレックスを抱えている人もいるかもしれせん。しかし、可否によって人生が決まるわけではなく、その先の道を切り開くのは自分自身です。そして、その可能性を広げられるのが、個性を伸ばす夙川の魅力だと考えています。

私の人生の転換点は、中1の三者面談でした。英語の成績がこのままではBコースにいられないと言われ、悔しい思いをしました。そこからは毎日9時学に残り、英語に打ち込みました。高2の頃には、毎週特別講座で東大の問題を解説してくださった先生のおかげで、英語に対する圧倒的な興味と自信をもつことができました。最終的に、英語は私の武器となり、人生を懸けて知り尽くしたいものとなりました。

「できないことを恥と思わず、できる

学校のTBM教育は、合格という受験の終着点を、人生のゴールではなく一つのステップと考えさせてくれるという点で、非常に役に立つものであったと感じています。

自分の理想の将来像を思い描くことで、なんとか気持ちを奮い立たせながら勉強に向き合っていました。

受験は確かに辛く、面白みのないこととです。しかし、僕たちは好きなことをしているだけでは生きていきません。時には苦しい局面に立ち向かわねばなりません。その一つが受験です。この思い悩み、苦しみもがいた経験こそが、強靱な精神力を養い、僕たちの人格を形成していくのです。

僕が伝えたいことは三つです。
1. 将来像を定めておくこと。
2. 自分のしていることを見つめ直すこと。
3. 悩むことから逃げないこと。

これは、皆さんが壁にぶつかった際に、その壁を乗り越える手助けとなるはずです。皆さんも、自分の将来像から「自分が受験をする意味を考えてみてください。見つけた意味があなたを合格へと導いてくれるはずです。頑張ってください。応援しています。」



京都大学
工学部 物理工学科

川崎 悠翔

過去問から学ぶ思考力

私は家では勉強に集中できませんでしたが、そのため、中学3年生の頃からほ

自分を信じるのができませんでした。しかし、入試前日、私は多くの人に支えられていたのだと気づき、その事実が自信となり、背中を押してくれました。そしてその支えがあったことは、私の誇りとして心に残り続けると信じています。

受験勉強を頑張る皆さんが、周囲の方々に支えられていることを忘れず、感謝の気持ちをもち続けてくれることを願っています。受験期を乗り越えた皆さんには、誇らしい未来が待っています。どうか最後まで頑張ってください。心から応援しています。



神戸大学
海洋政策科学部
海洋政策科学科

鶴丸 愛

「一冊完成」にこだわ

私が受験生活において意識していたことは、「一冊完成」を貫くことです。この勉強法の大切さは、先生から繰り返し教えられていました。一つの参考書を完璧に仕上げるという方法が自分の性格に合っていたため、受験勉強を始める前の定期考査の学習段階から意識して取り組んでいました。

初めて問題を解いた時は、解答を見ても理解できないことが多々ありました。しかし、問題を章ごとに区切り、一つひとつを腑に落ちるまで何度も繰り返し解くことで、徐々に理解を深めていきました。「一冊完成」とは、単に解答を暗記することではありません。その問題の解法がなぜ成り立つのか、どの

ば毎日、9時学を利用して学校で勉強し、高校3年生では休日に開放される自習室も活用しました。他の人が勉強している環境に身を置くことで、自分も継続して学習に取り組むことができました。また、受験期には友達と問題を解き合ったり、分からないことを質問したり、学んだ考え方を共有したりすること、知識を深めました。友達から学びつつ、自分で考えてアウトプットすることで、知識の定着を図ることができたと感じています。

中学や高校1年生の頃は、定期考査や課題に取り組む程度の勉強しかしていませんでした。しかし、定期考査の学習を通じて各分野の基礎をしっかりと身につけることができました。

高校2年生の夏からは、苦手だった化学や英文解釈を重点的に勉強するようにしました。この時期に二次試験で必要な科目の基礎力を固めたことで、京都大学合格への道が開けたのだと思います。高校3年生では過去問演習を中心に行いました。過去問への挑戦はとも楽しく、問題を解くことで新たな知識を得る楽しさを感じるとともに、同じ問題を解き直すことで自分の成長を実感できました。特に京都大学では、過去に出題された問題の考え方を応用できる問題や、類似した単語やテーマが登場することが多く、単なる解答の暗記では対応できません。そのため、過去問を通じて、知識を応用できる力や本質的な考え方を身につけることが重要だと考えます。「なぜそのような考え方をするのか」を徹底的に考えながら取り組むことが大切です。

私はもともと英語が得意ではなく、単語の暗記も苦手でした。苦手克服には、日常的に英語に触れることが重要だと考え、ドラマを英語で視聴したり、スマートフォンの設定を英語にしたることで、楽しく勉強することがで

ような発想から導かれるのかを本当に理解することが重要です。

例えば、数学では突然はさみうちの原理」が登場することがあります。ただ解答を覚えるだけでは、その原理がなぜ使われるのかが分かりません。しかし、理解を深めて腑に落ちることで、「不等式を使って極限を求めるために用いているのだ」と納得できるようになります。このように本質を理解することで、より汎用性が高まり、今後の類似問題にも対応できるようになります。もちろん、この理解に至るまでの過程は決して簡単ではなく、私自身も発想の仕方を先生に教えていただくかなければ分からないことが多くありました。そのため、何度も質問に行き、「一つひとつ」本当の意味での「できた」を積み重ねていきました。時間はかかりますが、しかし、だからこそ「一冊」にこだわります。この一冊の全ての問題を、自分のものにしていくことが大切なのです。

私がこのことに気づいたのは、高校3年の夏でした。それまでは、解答を覚えてただけで満足していました。しかし、真の理解に重点を置くようになってからは、「こういう問題が出たら、こう考える」という思考の流れが分かるようになり、初見の問題でも解けるようになっていきました。

これを読んでいる皆さんの中には、受験に対して漠然とした不安を抱えている方もいるかもしれません。「本当にここまで完璧にできるのだろうか」「私も同じように思っています。しかし、受験を終えた今、思うことは「なんとかなる」ということです。ただし、これは「甘えてもいい」という意味では決してありません。与えられた課題や自分で決めたことを完璧にこなせなくてはならないです。全力を尽くせば、必ず今より良い方向へ進めるはずです。皆さん

きました。特に高校3年生の春頃から、英語を英語のまま理解できるようになり、見たことがある単語を無意識に理解できるようになりました。これは、日々の積み重ねの成果だと思います。

受験において、何を核として意識するかによって、モチベーションは大きく変わると思います。私はひたすら勉強を続けてきたこともあり、夏の冠模試ではこのままの方針で問題ない」と思える成績を取ることができました。しかし、本番では緊張から、本来の実力を発揮できない可能性もあると考え、合格ギリギリのラインで満足せず、できる限り実力を伸ばそうと決意しました。

受験は他の受験生との戦いですが、私は「今の成績なら大丈夫」と安心することは避け、本番直前まで気を緩めることなく勉強を続けました。その結果、実力不足による焦りを感じることがありませんでした。本番では理科で多くのミスをしてしまいましたが、目標を高くもち、徹底的に学習を重ねたことで、合格ラインを超える実力を身につけることができたと考えています。

受験本番では先生方のメッセージと過去の自分の成功体験が大きな支えとなりました。私は思っている以上に緊張しやすいのですが、模試や直前の過去問演習を通して「本番では普段通りやれば良い」と自分に言い聞かせ、落ち着いて試験に臨むことができました。また、先生方から「終わったことは気にしない」「落ち着いて」と繰り返し言われていたこともあり、共通テストでは実力がある程度発揮することができました。

私は学習環境を工夫し、友達と切磋琢磨しながら知識を深く、過去問演習を通じて大学の出題傾向を理解することで、大学受験を乗り越えました。皆さんも、自分に合った学習法を見つけ、目標に向かって頑張ってください。

んが明るい未来へ歩めることを願っています。

最後になりますが、私は受験生活の中で、先生方に大変お世話になりました。一度に多くの質問をしたり、同じ問題を何度も尋ねたりしましたが、その全てに丁寧に答えてくださいました。また、お願いをして講座を開いていただいたり、個別指導を何度もしていただいたりしました。これらのおかげで勉強を楽しみ、問題を解く喜びを知ることができました。さらに、進路相談にも数多くのついでいただきました。

私が合格できたのは、先生方の支えがあったからです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



九州大学
工学部 VI群

和田 智之

研究活動Ⅱ大学合格

はじめに、大学受験を支えてくださった先生方や家族、そして多くの方々にごの場を借りて心より感謝申し上げます。もし皆さんに背中を押していただければ、私の合格は程遠いものだったと思います。

さて、合格体験記を書くにあたり、まずは第一志望校についてお話ししたいと思います。実はもともと別の大学を志望していました。しかし、苦手科目である英語の成績が伸び悩み、共通テスト後に志望校を変更しました。その理

由は、「研究をしたい」という思いが最も優先にあったからです。正直なところ、受験勉強よりも研究に没頭したかったのですが、やはり有名大学に進学しなければ、研究仲間や環境が整わないと考え、淡々ながら勉強を続けました。浪人して1年を失うくらいなら、志望校を変更しようと思断しました。二次試験では英語を捨て、数学・物理・化学でほぼ満点を取るつもりで挑み、合格を勝ち取りました。結果として合格を得て、再び研究に取り組めるようになったためこの選択は正しかったと思います。

次に、私がこだわり続けてきた研究についてお話しします。私は6年間、理科学研究部に所属し、ひたすら研究活動に打ち込んできました。理科学研究部の活動がなければ、私の大学合格はなかったといっても過言ではありません。受験期直前の最後の文化祭でも、展示の準備に夢中になり、勉強そっちのけで研究していたため、特に英語の成績は伸びませんでした。しかし、この6年間の活動を通じて物理・化学に対する理解が深まり、特別に勉強しなくても高得点を取ることができました。もし興味があれば、ぜひ理科学研究部に入学してみてください。東大・京大レベルの物理・化学の問題も解けるようになります。

ここまで読んで、私があり努力していないように感じるかもしれません。おそらく他の難関大学の合格者の中で最も努力をしていない部類に入っていると思います。苦手科目を勉強するとモチベーションが全く上がらず、すぐにやめたくなってしまふ。気づけば数学や他の好きな科目の問題を解きたくなってしまふ。そこで、少しでも勉強時間が長くなるよう、英語を少し勉強したら数学や物理・化学を挟むという方法で、なんとか乗り切りました。

また、私は極力細かい予定を立てないようにしていました。例えば、1週間の学習計画を立てても、3日目ですれどと途端にモチベーションが下がってしまします。それを防ぐために、予定は前日または当日に立てるようにしました。さらに、「勉強しない日を作るのが最悪の状態だ」と考え、毎日10時間以上とはいかなくとも、最低でも8時間はキープすることを目標にしました。目標をやや高めに設定し、8割程度達成できれば十分と考える。このように、自分に合ったペースで勉強を続けました。これは、努力が嫌いで苦手な私なりの勉強法です。



努力と工夫の積み重ね

私は夙川高校から東京科学大学に合格しました。振り返ると、受験勉強は決して順風満帆ではありませんでしたが、努力と工夫を重ねることで、合格を掴み取ることができました。

私は、高校2年生の終わり頃から本格的に受験勉強を意識し始めました。それまでは学校の定期考査対策が中心でしたが、受験勉強では特別講座などを活用して「基礎の徹底」と「効率的な学習」を重視しました。特に、数学と理科は得意科目だったので、演習を繰り返して解法のパターンを確実に身につけました。一方で、英語は苦手意識が

あったため、友だちと比較すると遅れているという焦りがあり、朝学の時間の単語テストや英文の読解を毎日コツコツと続け、少しずつ克服しました。スケジュール管理については、無理のない計画を立てることが重要だと感じました。私はPMTMを使って1週間ごとに目標を決め、達成できなかった場合は翌週に調整するなど、工夫をしていました。長期的な計画だけでなく、短期的な振り返りを行うことで、効率良く学習を進めることができたと思います。

模試は自分の実力を測る大切な機会だと思って取り組んでいました。私も積極的に模試を受け、結果を分析することで、自分の弱点を明確にしました。模試の成績に一喜一憂しすぎることもありました。しかし、次に生かすことが大切だと考え、私は模試の復習ノートを作り、間違えた問題の解き直しを行いました。

また、受験期は長く、モチベーションが下がることもありました。そのような時は、学校で先生に相談したり、友だちと励まし合ったり、志望校のパンフレットを見て「ここで学びたい」という気持ちを再確認したりして、気持ちを切り替えるようにしました。先生方は普段からよく声をかけてくれ、些細なことでも相談できました。受験本番が近づくにつれて、不安も大きくなりましたが、「ここまでやってきたんだから大丈夫」と自分に言い聞かせ、落ち着いて試験に臨みました。本番では、分からない問題に固執せず、解ける問題から確実に得点することを意識しました。また当日は睡眠不足にならないようにだけを気をつけ、いつも通りの平常心で試験に臨むことを心がけました。

受験勉強は決して楽な道ではありませんが、努力した分だけ成長できる貴重な経験だと思っています。受験で大切な

の現状をしっかりと理解し、必要な部分を一つずつ克服していくことで、必ず道は開けます。夢に向かって努力を続けることの大切さを、私は身をもって学びました。



学校生活と勉強の両立

私は学校生活と水泳を楽しむながら、医師を目指す決めて夙川中学校、高等学校に進学しました。決意の通り、中学から高校2年生の夏まで水泳に打ち込んできました。学校行事を優先しながら、クラブチームで朝夕の練習に励み、生徒会活動にも取り組みつつ、水泳中心の生活を送っていました。勉強が疎かにならないよう、学校の授業や宿題は学校を出るまでに終えることを心がけ、効率的な時間の使い方を意識しました。特に数学は得意科目だったこともあり、先生が様々な問題を出題してくださったので、隙間時間に解い

のは、自分に合った勉強法を見つけ、継続することだと感じています。時には息抜きをしながら、最後まで諦めずに頑張ってください。皆さんの努力が実を結ぶことを願っています。



目標を貫いた6年間

まずは、中高6年間の学校生活を支えてくださった先生方、家族、友人、そして多くの方々に心より感謝申し上げます。今回は、この場をお借りして、私なりに考えた香川大学医学部医学科に合格できた理由をお話ししたいと思います。

私は入学当初から「医師になりたい」という確固たる目標をもち続けていました。しかし、その目標を達成するために具体的は何をすべきかが明確ではなく、まずは定期考査で良い順位を取ることを身近な目標として掲げました。そして9時学に参加したり、友人と競い合いながら勉強することで、その目標を一つずつ達成していきました。今振り返ると、そうした積み重ねが、受験期に各科目の基礎を固める場面や、黙々と勉強に取り組む必要がある環境において、大いに役立ったのだと思います。

本格的に受験勉強を始めたのは、高校2年生の夏からです。私はPMTMを応用し、A4ノートを使ってオリジ

ていました。高校2年生の夏に水泳を引退し、その後は様々な大学のオープンキャンパスに参加しました。どのキャンパスで自分が学びたいかを考えたうえで、目標とする大学の二次試験対策として理系科目の演習や過去問に取り組みました。特に英語は単語の暗記と音読に力を入れ、基礎力の強化に努めました。また、苦手科目についても徐々に教科書の読み直しを始めるようにしました。

高校3年生の夏には、医学部の公募推薦入試を受けることが決まりました。その大学の試験では共通テストと小論文、面接が課されるため、国立前期試験の二次試験で使用しない科目を中心に共通テスト対策を行いました。共通テスト対策では過去問を解き、出題傾向を把握しながら効率的に学習を進めました。

公募推薦入試の約4か月前から、は、共通テスト対策と並行して面接の準備にも力を入れました。面接では、自分の強みや志望動機を明確に伝えることが重要だと考え、何度も練習を重ねました。しかし、共通テスト後に受けた公募推薦入試は不合格となり、非常に悔しい思いをしました。

その後、琉球大学医学部の前期試験に向けて準備を再開し、二次試験対策として英語・数学・物理に全力を注ぎました。特に物理・化学の演習を繰り返し行い、苦手分野の克服に努めました。前期試験の2週間前に受けた私立医学部の一次試験に合格したことは、大きな自信となりました。また、試験直前には担任の先生が何度も面接練習をしてくださったため、本番では落ち着いて受け答えすることができました。その結果、前期試験で合格通知を受け取ることができました。

この経験を通じて、目標に向かって努力し続けることの大切さを学びまし

ナルの学習計画表を作成しました。1日・1週間・1か月単位で目標を設定し、それを視覚化することで、学習方針を定期的に見直し、改善を重ねました。自分に合った工夫をしたことで、飽きることなく受験が終わるまで継続できました。また、もともと得意だった英語をさらに強み、そしてと考え、先生に英文の添削や面接練習をお願いし、秋には英検準1級を取得しました。

高校3年生になると、過去問を解いて出題傾向を把握したうえで、演習中心の学習に切り替えました。しかし、理系科目の成績が伸び悩み、「このままでは合格できないのではないか」という漠然とした不安を抱えるようになりました。そんな時、夏の終わり頃に先生から推薦入試の話聞き、合格の可能性を広げるために挑戦することを決意しました。英語・理系2科目・面接で受験できる香川大学を選び、一般入試対策と並行しながら準備を進めました。並行して勉強するのは大変でしたが、担任の先生をはじめ、教科担当の先生方や進路指導の先生方から丁寧な指導を受け、11月の学科試験では手応えを感じるすることができました。また、同じ医学科を目指す友人と面接練習を重ねたこと

で、本番では過度な緊張をせず、自分の言葉でしっかりと受け答えできたと感じます。その後、共通テストを乗り切り、2月に合格通知を受け取った時の喜びはひとしおでした。私たちは中高一貫1期生であり、先導してくれる先輩がいなくて進路を切り開く必要がありました。しかし、担任の先生や進路指導の先生方に積極的に相談することで、進むべき道を明確にすることができました。私が合格できたのは、地道な努力を継続したこと、そして何より周囲の支えがあったからこそです。

受験勉強は試行錯誤の連続です。時には不安に駆られることもあるかもしれ

た。模試の成績が思わしくなく、失敗や挫折を経験することもありましたが、平常心を保ちながら乗り越えることで成長できたと感じています。今後この経験を糧に、医師という目標に向かって挑戦し続けたいと思います。

最後に、私を支えてくださった先生方や仲間、心から感謝申し上げます。先生方は常に私の成長を見守り、的確なアドバイスをくださり、時には励ましの言葉をかけてくださいました。友達と自習をし、分からない問題を一緒に解くことで新たな解法に出会うこともあり、また、自分が解ける問題についてもより深い理解につながりました。公募推薦入試の不合格後、前期試験までの間に落ち込んだ時も、友達や家族が励ましてくれたおかげで最後まで全力を尽くすことができました。多くの方々の支えがあったからこそ、私は目標に向かって努力し続けることができました。本当にありがとうございました。



諦めずに抱んだ合格

このように合格体験記を書くことができ、大変嬉しく思います。私がかこにたどり着くまでの過程が、少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

私は幼い頃から医師になることを夢見ていました。その夢に一步近づぐために中学受験に挑戦しましたが、第一志望の須磨学園中学校には合格できませんでした。併願校として合格をいただいていた夙川中学校に入学し、中高一貫の1期生として新たな生活をスタートさせました。私の夢への第一歩は、挫折から始まりました。しかし、この経験が私を強くし、今の自分を形作る大きな糧となったと感じています。

本格的に受験を意識し始めたのは、高校2年生の春でした。それまでは定期考査で良い成績を取ることを目標に勉強していましたが、医学部を目指すには十分ではありませんでした。そこで、高校2年生の1年間は基礎を徹底的に復習し、勉強の習慣を確立することを意識しました。この時期に身につけた学習習慣が、後の大きな成果につながったと感じています。